



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

複十字シール募金で支えるカンボジアの結核対策の現状 ～カンボジア結核対策スタディツアー2015に参加して～

宮崎県健康増進婦人の会 会長 谷口 由美繪

スタディツアーには、カンボジアの現状を見て聞いて複十字シール募金の役割を実感すること、そして募金活動の意義を会員に伝える事を旨として参加しました。

平成27年11月30日(月)18時、羽田空港にある羽田エクセル東急に集合。明日から1週間のスタディツアーに備えての事前打合せが行われました。丁度海外に出張される工藤理事長も同席され、“しっかり現状を自分の目で見てくることが何より大事”とエールを送っていただきました。明日からのスケジュールと現地の様子、注意事項等々を聞き心構えが出来ました。

12月1日(火)羽田空港10時45分発、バンコク経由で目的地プノンペンに着いたのは、19時35分。3日間滞在するヒマワリホテルにチェックインしました。

12月2日(水)7時出発。カンボジア結核予防会(以下CATAと表記)プロジェクト縫製工場を見学しました。(下記写真①)20歳前後の女性達1300名の流れ作業は壮観でした。ジーパンやTシャツが次々と出来上がり、日本にも輸出されているとのこと。工場の責任者(女性)によると年間3~4名の結核患者が発生し、検査や治療はカンボジアの国立結核センターで行われ、そこまでの交通費支給や1ヶ月間の有給治療もあるとのこと。又、その費用として日本の複十字シールの募金の一部がCATAを通して使われていると説明されました。

医務室の設置、医師の交替の常駐、看護師も配置され、健康管理に力を入れていると聞き安堵しました。発展途上国で働く女性たちに経済力を与え健康増進の保健思想を広く地域住民に広げるこのシステムは見事だと思います。続いてCATA事務所を表敬訪問し、事業説明を受けました。そこで日本の全結婦連より事業資金として1,000ドル(日本円で約10万円)を贈呈しました。(下記写真②)この贈呈資金は、縫製工場の健康普及啓発や高齢者の住民調査事業に使用したいと感謝されました。

私達の募金が活かされていること、そして感謝されていることを実感しました。

12月3日(木)7時30分出発し、外務省N連プロジェクトサイトを視察し内部の施設を見学しました。(下記写真③)



① CATA プロジェクト縫製工場



② CATA事務所にて事業資金として1,000ドルを贈呈



③外務省N連プロジェクトサイト(ロカヘルセンター)

デジタルX線やLED顕微鏡等日本から送られてきたものが数個あるだけでしたが、この国にとっては研究に大変貴重な物であることがわかります。(下記写真④)

私達は奥地の部落を訪ね60歳位の結核患者と、ヘルスポランティアの女性に会いました。丁度薬を持参し飲むところを見届けました。(下記写真⑤⑥)歩いて山を越え隣部落の患者に薬を届けるボランティア精神に強く打たれました。

私達の募金活動がこの様に活かされていることを目のあたりにし、活動の必要性を強く感じました。

ヘルスポランティアの彼女たちにTシャツユニホームをプレゼントし、誇りと使命感を支えたいと心から思いました。“ワンコインでTシャツを送ろう”のキャッチフレーズは如何でしょうか？

12月4日(金)8時30分ホテルを出発し、経済産業省プロジェクトサイトの視察をし、日本式健診・検査センターを見学しました。(下記写真⑦)この健診・検査センターは、カンボジアの国立大学で唯一医学部を有する国立保健科学大学と協力し、質の高い健診・検査を提供し国民の健康に寄与すると共にカンボジアに参入する日本企業や外国企業で働く方々の健康管理も行うことを目的とし、今年4月の開所を目指しています。医学生姿を見る機会もあり、今後は国の医療に携わることを彼等に期待したいと思いました。

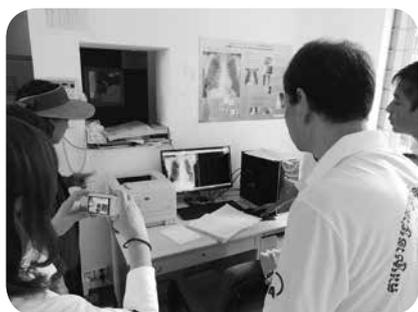
日本からの複十字マークの検診車も大活躍していることを知りうれしく思いました。(下記写真⑧⑨)

12月5日(土)8時出発し、キリングフィールドの見学に出かけました。ポルポト政権時代(1975～1978)の大量虐殺により多くの知識階級、専門職、医師たちも含み200万人位、処刑、虐殺されたとの案内板がありました。同民族同士が殺し合った悲劇の現場は言葉がありませんでした。沢山の掘り起こされた白骨を祭っている中央の塔に、この国の時代の悲劇と近代化の遅れを理解しました。

知識人、文化人を無くした国に国際協力機構JICAと結核対策プロジェクトが貢献してきた事は、素晴らしいことです。DOTS方式を取り入れ、全国に広げた事も大きな成果です。10万人以上の結核患者が治療を受けたとのこと、再発患者も半減したとの報告に日本の貢献度のすばらしさを知りました。

国の中央に流れるメコン川、その川から沢山の魚が取れ豊かな野菜と果物、種々の肉類等自然に恵まれたカンボジアは今、ビルや住宅の建設ラッシュ、道路整備、ゴミ問題もこれからの中で活気があり、力強い住民の生活力に圧倒されました。カンボジアの抱える問題を肌で感じ募金の力の大きさを認識出来たことはツアーの収穫でした。

終わりに現地でも頑張って活動されている、結核予防会国際部所属でN連カンボジア事業調整員として現地に派遣されている小林繁郎様、結核予防会国際部の柳亮一郎様をはじめ、スタッフの方々の使命感と行動力に敬意を表し心から感謝とお礼を申し上げます。🐱



④外務省N連プロジェクトサイト視察(州病院)



⑤結核患者宅に到着したヘルスポランティア



⑥結核患者にDOTSを行うヘルスポランティア



⑦経済産業省プロジェクトサイト健診・検査センター建設予定の国立保健科学大学



⑧公益財団法人長野県健康づくり事業団より寄贈された検診車



⑨公益財団法人やまがた健康推進機構より寄贈された検診車

会長就任ご挨拶

広島県地域女性団体連絡協議会 会長 澤井 清子



平成11年に初めて会長に就任し、この度地元会員さんのご支援の元、再度会長に就任致しました。

早速8月3日には広島県知事を訪問し、シール運動の趣旨をお伝えしました。地域女性会の年間事業計画に基づき学習と実践は欠かすことはできません。素早く変化する社会の課題に、地域女性会は学習に、地域参加にと慌ただしく充実の日々でもあります。又複十字シール運動も欠かすことなく行うことで地域に浸透してまいると信じております。

平成27年度第17回中国、四国地区結核予防婦人団体幹部研修会にも参加。中四国女性会の交流を通し、食品と薬を扱っている大塚製薬の講演、「ワクチンで子どもを守ろう—BCG接種—」と題した公益財団法人結核予防会結核研究所名誉所長森亨先生のご講演に聞き入りました。女性団体の学習の場感謝致します。🐱

愛媛県結核予防連合婦人会 会長 三好 康子



平成27年度より会長に就任致しました三好でございます。日頃より自分の健康は自分でという信念の

元、日常生活に取り組んでおります。結核については私達の子供の頃に各地に蔓延し身近な所でも命をなくされた方を目にしております。私自身結核予防婦人会に入会して半世紀が過ぎる中、全国各地で行われている研修会にも参加をしながら、結核についての知識を深め地元会員の皆様と共に、複十字シール募金活動を通して幅広い啓発活動に力を入れております。

現代の素晴らしい医療技術の発展に伴い忘れかけている目に見えない「結核菌」。継続は力なり。女性達の底力で末永い活動を続けて世界中の結核制圧に向かって今後も取り組み、更なる活動を推進して参りたいと思います。🐱

筆者ご紹介顔写真掲載漏れについて（お詫び）

健康の輪No115（平成27年11月号）P2～4「県知事表敬訪問」記事に掲載すべきでありました筆者ご紹介顔写真が漏れておりました。心よりお詫び申し上げます。つきましては今回号にお写真を掲載させていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。🐱



①新潟県食生活改善推進委員協議会
会長 外山 迪子



③広島県地域女性団体連絡協議会
会長 澤井 清子



②三重県地域婦人団体連絡協議会
（三重県結核予防婦人会）
会長 梶田 淑子



④愛媛県結核予防連合婦人会
会長 三好 康子

※熊本県健康を守る婦人の会東家 武子会長につきましてはご本人の御意思によりお写真掲載は控えさせていただきます。

ブラジル訪問記 ～日系女性の活動にふれて～

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

昨年の秋、日本・ブラジル外交関係樹立120周年の機会に、宮様と一緒に、約2週間にわたり、ブラジル国を訪れました。

ブラジル国滞在中の12日間に、6州、10都市を訪問し、各地で多くの日系人にもお目にかかり、温かく迎えていただきました。また、その折には、移住後の様子や生活について伺う機会があり、日系女性の活動にもふれることができましたので、これらの一部をご紹介します。

最初の訪問地、サンパウロ市では、ブラジル日本文化福祉協会が歓迎行事がおこなわれ、日系女性のコーラスグループである文協女声合唱団が、日本とブラジル両国の国歌とともに「ともだち」、「3つの汽車の歌」を見事な歌声で聞かせてくださいました。同じ建物にあるブラジル日本移民史料館では、日本からの移民の生活道具、写真や資料などを通して、移民の暮らしとご苦労に思いを馳せました。

次に訪問したブラジル南部のパラナ州では、クリチーバ市のクリチーバ日伯文化援護協会で、同協会文化部の皆さまが和太鼓の演奏、日本舞踊、熊本民謡の歌と踊りを披露してくださいました。



日本舞踊 (パラナ州クリチーバ市にて)

同州のロンドリーナ市では、パラナ日伯文化連合会婦人部が、お赤飯やお煮染めなどの和食でおもてなしてくださいました。また、ローランジア市では、パラナ日伯文化連合会が運営しているパラナ移民センターの移民史料館で、開拓当時の移民の生活を偲びました。マリンガ市では、マリンガ文化体育協会を訪ね、毎年9月頃に盛大に「日伯文化祭」が催され、約10万人が訪れるというお話を伺いました。

ブラジル西部のマット・グロソ・ド・スール州カンポ・グランデ市では、カンポ・グランデ日伯文化体育協会の婦人部がバザーのために作ったすばらしい手工芸品を拝見し、訪問を歓迎して作ってくださったケーキや沖縄そばをおいしく頂戴しました。鉄道を敷設する工事に携わった沖縄県出身の方々が当

地に移住したことがきっかけで、カンポ・グランデ市に住む日系人のおよそ7割は沖縄県に縁があるといわれています。このようなことから沖縄そばは、市の名物になっており、市民にも観光客にも、大変人気があると伺いました。



バザーのための手芸品 (マット・グロソ・ド・スール州カンポ・グランデ市にて)

さらに、赤道に近いアマゾン川流域のパラー州ベレン市の歓迎行事では、日系女性を中心となり、すばらしい音色で琴を奏でてくださいました。首都のブラジリア市、オリンピックが今年開催されるリオデジャネイロ市でも、ブラジル各地の日系団体で活動する方々にお会いし、様々な貴重なお話を伺う機会がございました。

また、これはブラジルを訪問する前のこととなりますが、東京都現代美術館で、ブラジルの高名な建築家オスカー・ニーマイヤーの展覧会を鑑賞しました。その折に、ニーマイヤーと一緒に仕事をしたこともある日系人の抽象画家トミエ・オオタケの彫刻を見ることができ、ブラジルでも、彼女のダイナミックな作品を幾つか拝見する機会がありました。戦前、ブラジルに渡り、結婚して二人の子どもを出産した後、絵を描き始めたそうです。抽象画や彫刻が高く評価され、昨年2月



文協女声合唱団 (サンパウロ州サンパウロ市にて)

に101歳で亡くなるまで、創作活動に携わっていたとお聞きしました。彼女に代表されるように、これまでも、そして現在も、日系女性が、芸術、医学、教育、政治など様々な分野で活躍されています。大変うれしいことです。

日本からブラジルに移住した女性たちには、幼少の頃に家族と一緒に移住した人、先に移住していた青年と結婚するために単身で赴いた人などがいました。入植地での生活は、農作業や家業の手伝い、現地の言葉や習慣の勉強、日本食の食材探し、子どもの教育などがありました。移住後の過酷な日々を懸命に過ごしていたことが、資料にも記されています。

こうした厳しい環境の中で、日系女性の活動は、時代や居住地によって様々だったようです。戦前の移住地では、日本人会や県人会などが、お正月やお盆などの行事を地域全体で催しており、そのご馳走作りが

女性の大仕事で、いわゆる婦人会の活動へつながっていったと聞いています。年中行事の他、毎月の集まりや料理の講習会、日本語学校の先生の歓送迎会などもおこなわれていたようです。

戦後は、日本への救援物資集めや混乱するコロニア(日系社会)を援助するためのボランティア活動をおこなう日系女性の団体が主に都市部でいくつか設立されました。現在でも、お寿司や天ぷら、お漬け物などの和食や手芸品などを出品するバザーやお茶会を開催し、収益金を日系の社会福祉団体へ寄付する活動が続いています。また、お料理、日本語、ポルトガル語、書道、俳句や短歌などの教養講座を運営したり、舞踊や民謡などの伝統芸能に力を入れたりしている団体もあります。

こうして大事な役割を果たしてきた日系女性の団体は、1世、2世が中心となって活動し、続く若い世代

へ継承していくことを大切にしていますが、その一方で、以前に比べて日本語を学び、話す日系の子どもたちが少なくなっているという話も聞きました。

この度のブラジル訪問を通じて、ブラジルの人々の日系社会に対する信頼が厚く、また、日本から遠く離れたブラジルにおいて、日系人たち、もしくはその両親・祖父母の世代のふるさとの記憶が残り、継承されていることを強く感じました。ここに至るまでには、それぞれの地域を支え、助け合い、日本の文化を伝える熱意をもって活動されてきた日系女性の力が大きく貢献してきたことでしょう。

日系人が歩まれてきた長く険しい道のり、そしてはかりしれないご苦労とご努力に思いをいたしつつ、自分の家族や地域の人々のために尽くされてきた女性のことを合わせて大事に心に留めて参りたいと思いました。🐱

平成 27 年度地区別結核予防婦人団体 幹部研修会 (5 地区) 開催

北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



「北海道家族の健康をまもる講習会」は7月3日4日例年通り国立大雪青少年交流の家で開催されました。プログラムは第1日目屋外スポーツと屋内スポーツ卓球等を実施、複十字バッジの手作り教室と多彩に行われ、夕食後は参加団体地区別活

動紹介と全体交流会を行い「北海道は広域なので長時間旅行」となる話題や食改善推進委員の減塩味噌汁の試食会があり食と健康と塩分制限について学びました。

2日目講習会、結核予防会事業部市川雄司普及広報課長による「結核予防会本部が実施している普及広報活動の現状と課題」をテーマに私達のあまり知らない広報活動の内容、日本と世界の結核、普及啓発、予算規模等についての貴重な講演は感激深いものでした。第2講座は「女性の未病について」旭川医科大学産婦人科加藤育民先生の病気ではないけれど病気に向かいつつあ

る状態について、検診と検診の医学的種類等データやグラフによる講話を拝聴し大変勉強になりました。

終わりに「健康は素晴らしい」と感動的に締めくくられました。

私達は、健康であるために結核・がん・生活習慣病の予防啓発活動を確信したのです。🐱



日本と世界の結核



普及啓発活動の現状と問題点



北海道家族の健康をまもる講習会



平成27年度
東北地区結核予防婦人団体幹部研修会



北海道家族の健康をまもる講習会



「健康の歌」を全員で斉唱



班別討議で活発に意見交換



結核の現状について学習

東北地区

宮婦連健康を守る母の会
会長 大友 富子

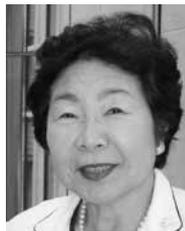


平成27年11月12日と13日の両日仙台市「秋保温泉ホテルニュー水戸屋」において、東北6県から約120名が参加して幹部研修会が開催されました。

特別講演は東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門教授渡辺彰氏より「肺炎を予防しよう～ワクチンの話を含めて～」と題してご講演頂きました。肺炎菌のワクチンとインフルエンザの同時接種は安全でワクチンによる種々の疾患予防につながるということでした。また、公益財団法人結核予防会結核研究所名誉所長森亨氏より「ワクチンで子どもを守ろう～BCG接種～」と題しご講演頂きました。結核菌は空気感染であり、乳幼児、思春期に感染すると危険であるとの事でした。BCG接種の予防効果は大きく、特に子供達の接種を呼びかけていきたいと思いました。東北6県の会員にとって有意義な研修会でした。

関東甲信越地区

埼玉県地域婦人会連合会結核予防会
会長 柿沼 トミ子



平成27年度「幹部研修会」が、11月24日さいたま市の「ホテルプリランテ武蔵野」に於いて80名の参加で開催されました。

研修会は午前・午後の2部制で行われ、結核予防会結核研究所の石川信克所長、森亨名誉所長それぞれにご講演いただきました。「結核は過去の病気ではなくいま流行っている病気であり、70歳以上の方々の発病と都会を中心に39歳以下の新しい感染と発病が広がっている」という現状を伺い、私達関東甲信越地区では東京都・さいたま市・神奈川県と結核罹患率が高く、若者に結核という病気を知らせる活動の重要性を痛感しました。

続いて、全国結核予防婦人団体連絡協議会の山下武子事務局長をお迎えして班別討議を行いました。「複十字シール募金の意味・意義がわかった、工夫して広げたい」「結核予防について正しい知識を持ち広める事が大切」などの意見も出

中国・四国地区

鳥取県健康を守る婦人の会
会長 豊島 登志枝



平成27年12月3日(木)・4日(金)、第17回中国・四国地区結核予防婦人団体幹部研修会がホテルモナーク鳥取で開催されました。

1日目は大塚製薬株式会社鶴田正人氏の「大豆イソフラボンとは体内できちんと代謝されているのでしょうか?～大豆乳酸菌発酵成分“エクオール”について～」と題した講演があり、次に公益財団法人結核予防会結核研究所名誉所長森亨

先生の「ワクチンで子どもを守ろう - BCG接種 - 」と題した講演がありました。BCG接種の必要性と小児結核は感染するとすぐに発病しやすく重症化しやすいなどの特性があると話され、予防接種の必要性を再認識しました。次に結核予防会結核研究所小林典子対策支援部長をコーディネーターとしてワークショップを行いました。テーマは①今後の婦人会の役割について②シール募金の増加策について各グループ共活発な意見が出されました。参加者一人一人が結核予防に強い関心があり、各地域で創意工夫しておられることに感銘を受けました。夜の懇談会は各県からの余興もあり大盛会でした。

2日目は結核予防会顧問島尾忠男先生の「結核という病気～国の内外での古くて新しい問題～」と題した講演があり、結核という病気の特色やデータをもとに日本の結核対策の歩み等お話をされました。島尾先生の永きにわたる経験と実績の中からお話を聞き、改めて結核に対する知識を深め、人から人へ伝えていく啓発活動の大切さを痛感いたしました。次に、シンガーソングライター講師石川達之氏の「思いを伝えて心を健康に」と題した講演があり、2日間の日程を終了しました。

中国・四国地区の婦人団体の皆様と共に過ごせた研修会はとても有意義で実のあるものでした。結核制圧のために、この研修会で学んだことを一人でも多くの皆さんに伝えていきたいと思っております。



九州地区

一般財団法人長崎県地域婦人団体連絡協議会
会長 西山 智子



結核の制圧を図る為に、知識の向上・地域活動の推進・関係団体の連携を目的として、

第47回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会がホテルニュー長崎に於いて平成27年10月22日～23日150人の参加のもと開催されました。

講師に小林典子、森亨、塚本美鈴

の3人の先生を迎えての講義では、結核に対する知識を再認識し、私達の活動の方向性を指導して頂きました。

シンポジウムでは

- 宮崎県は、看護師としての経験の中から結核との出会いについての発表。
- 福岡県は、町内の皆さまに、回覧を回して複十字シール運動のご協力の報告と活動の取組みに関する発表。
- 長崎県は、全国で罹患率が二位となっていることに、海や山に囲まれ、空気もきれいな土地柄なのになぜとの発表。座長の長崎県保健所長会代表の宗陽子先生より、老人ホームでの集団感染が原因でしようとの話で少しは納得。

2日間参加することによって、指導者への育成にもなり、正しい知識を得、各団体の交流も出来ました。話し合った事を地域に持ち帰って役立ててほしいと願いつつ、複十字シール運動の大切さを確信出来た講習会でした。



複十字シールキャンペーン活動報告

青森県地域婦人団体連合会 会長 向井 麗子



平成27年7月27日。全国一斉複十字シール運動より数日早く三村県知事を表敬訪問しました。公益財団法人青森県総合健診センターから新任の石岡専務理事と3名の職務担当の同行者と共に、知事に結核の現状と今後の課題を申し述べました。知事は常に県民の健康をお気かけ、結核に関しても予防活動の必要性を理解してくださいました。

街頭での複十字シール募金活動は、例年通り9月下旬実行しましたが募金額の増は望めず厳しい結果でした。

青森県では募金活動とは別に毎年11月下旬を目途に婦人会幹部を対象にした研修会を実施しています。11月30日(月)参加者150名「女性の健康、特に更年期から老年期にかけて」～健やかな、からだと心と共に～の演題で長澤一磨氏(公益財団法人青森県総合健診センター副診療所長)の講演と「ジェネリック医薬品の仕組みについて」を小笠原恵子氏(青森県大学薬学部教授)の講話で学習することが出来ました。

上記の他に、街頭で実際に募金活動を実施した6名の代表者から実施時の様子、住民の反応等感想も含めて体験発表を行い、会員の意識の共有も図りました。

青森県は短命県脱却を目指し県民の健康寿命延伸に力を入れています。婦人会も結核予防運動と併せて、食育や減塩食普及運動にも協力し県内各地で活発な活動を展開しています。



7月27日三村知事表敬訪問



9月26日シール募金青森市の会場



10月30日平内町秋まつりの会場で募金運動



11月30日長澤一磨氏の講演



11月30日ジェネリック医薬品の講話画面

群馬県地域婦人団体連合会 会長 関 マツ



8月6日、公益財団法人群馬県健康づくり財団と群馬県地域婦人団体連合会の役員5人で県庁に出向き、知

事を表敬訪問致しました。

当日は、群馬県健康福祉部長が対応くださり、県内はもとより世界の人々の結核や胸部疾患をなくし、健康で幸せな社会を創るための複十字シール運動の趣旨を説明、ご理解と協力をお願いしました。

それに先立ち、6月27日には女性団体連絡協議会の主催による、2015年度男女共同参画フェスティバルに～目的は一つ、結核のない世界へ～をテーマに、結核はどんな病気?・結核はどう感染する?・もし結核に感染したら?・世界で猛威を振るう結核・結核の発病のメカニズム・複十字シール運動などの項目についてパネル展示し説明。「結核をなくそう」ののぼり旗を立て啓発グッズなどを配布しました。この活動により、多くの方が「結核」を再認識し、複十字シール募金の意義も理解されたものと思います。



富山県結核予防婦人会 理事 長谷川 邦子



富山県結核予防婦人会は、自分たちが結核に対する正しい知識を持つことをベースにした複十字シール運

動の取り組みを大切にしています。

活動スタートに先立ち、8月4日に県健康課感染症・疾病対策班副係長を講師に迎え、世界・日本そして富山県の結核について学びました。富山県は罹患者が2007年200人から2014年131人(罹患率12.2)に減少したと聞き、運動の手ごたえを感じました。

いよいよキャンペーン活動。9月23日(祝・水)。富山市グランドプラザと総曲輪・中央通り周辺にて展開。公益財団法人富山県健康づくり財団の皆さんと私達婦人会員にバルーンアートのピエロも加わりました。お子さん連れの若いパパにタバコの害や副流煙被害なども伝えることができました。

また、11月10・11日(火・水)富山県民会館にて開催の“いきいきとやま健康と長寿の祭典”では、パネル展示と啓発資材を配布するとともに複十字シール募金活動を行いました。「結核チャ、昔の事やろう？」と素通りされる方々に、咳が続いたら結核を疑い受診される事等を伝えました。

多くの方への呼びかけを通し、『結核』を『肺炎球菌』と勘違いしている人が多いとの実感から、いま一度正しく伝えることの大切さに気づかされた学びの多い1年でした。🐱



京都市結核予防婦人会 井上 恵津子



京都市結核予防婦人会は、保健衛生の取り組みとして「複十字シール運動」のほか、街頭啓発や各種研修会

への参加等、45年以上にわたって毎年の活動を継続しています。

今年度も、9月29日に京都駅前とその周辺において、啓発資料やグッズの配布、結核予防の呼びかけを行いました。京都駅周辺といえば外国の方の往来も多いのですが、そそくさと通り過ぎる方々に、短時間でどれだけ結核予防週間への関心を寄せていただけるかと、不安になることもあります。そんなとき、高校生らしき男子生徒さんが募金に協力してくれ、心が洗われた気分になりました。笑顔で言葉を交わすうちに、やはり地道に継続していくことが大事だと思直した次第です。感染症に国境のない今、病気ではなく笑顔をこの京都から広げていきたいと、改めて感じました。今後も研修や講習会を通して一層の理解を深め、自他の健康を願い、その思いと行動を広げていきたいものです。🐱

高松市婦人団体連絡協議会 香西婦人会 阿部 由美子

平成27年11月3日(火)イオン高松に於いて複十字シール運動キャンペーンがあり、香西婦人会より4名参加してお手伝いをしました。

朝11時30分に集合して2時間

位の間でした。

この日は火曜デーで買い物客も多く文化の日で高校生による書道パフォーマンスがあり多くの人でにぎわっていました。

B5版位の袋に資料が3~4枚入ったものを渡すのですが、キャンペーンの旗も立てタスキもかけているのになかなか受け取ってくれません。

色とりどりの風船を用意してくれていたので子供連れをターゲットにしたり、受け取ってくれそうな人に狙いを定めるのですが拒否されて嫌な気分になるのもたびたびでした。

結核は昔は恐ろしい病気でしたが今はあまり聞かなくなりました。

そのため、人々の意識が薄くなったのでしょうか。

「決して消滅した病気ではなく、感染する恐ろしい病気です。風邪の症状が長引くようであれば結核も考えてみてください。」との言葉を添えてお渡ししました。効果があつたことを期待しています。🐱



被災地支援「心の絆プロジェクト 2015」レポート

2011年7月。東日本大震災直後の混乱した中、「何かしなくては」その気持ちだけで立ち上がった心の絆プロジェクト。開始から5年目を迎えた昨年、当協議会も結核予防会と共にボランティアとして参加して参りました。

昨年は9月から10月の2か月間、岩手、宮城、福島県の3県、7カ所の主に仮設住宅を訪問。仮設住宅内の集会場をお借りし、のべ221名の方に肺チェッカーを使った肺年齢測定を実施しました。

訪問先と人数の内訳は下記のとおりです。

①9月5日(土)

岩手県宮古市田老町 31名

②9月12日(土)

宮城県名取市 20名

③9月13日(日)

宮城県石巻市 35名

④9月26日(土)

岩手県釜石市 20名

⑤10月3日(土)

福島県郡山市 17名

⑥10月4日(日)

福島県いわき市 18名

⑦10月10日(土)・11日(日)

宮城県気仙沼市 80名

地域によって仮設住宅の状況もさまざま。私がお伺いした福島県は、原発の影響で、生まれ育った土地に帰れる目途の立たない方、たとえ避難解除されたとしても病院、商店などの生活に必要な設備もなく、生業としていた

農業もできず、事実帰宅が難しい方など様々な状況に置かれた方がいらっしました。

自身で生計を立てられる若い世代はすでに仮設住宅を後にし、残っているのは高齢者が多い現状。

プレハブなど簡易的に作られた仮設住宅で4年半もの長い間生活を強いられ、東北の極寒の冬を想像するだけでその厳しい状況が伺えました。

我々が被災された方にできることは本当にわずかですが、それでも続けること、そして現状を皆様にお伝えすることが何より大切なのではないかと感じました。🐱



プレハブで作られた仮設住宅



イベントを開催する仮設住宅内集会場



仮設住宅内を歩き、住民の方にイベントのお知らせをする山下事務局長



当協議会と結核予防会で行った肺チェッカーを使用した肺年齢測定ブース



イベント内で踊りを披露してくれた福島県の小学生チアリーダーチーム「元気届け隊」メンバーと住民の方のふれあいの様子

心の絆プロジェクトでは活動を支援いただける企業や団体を募集しています。お問い合わせ先はこちらです。→info@kokoronokizuna.jp

イラスト・カット募集

平成28年7月号(健康の輪No.117)に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成28年5月6日(当会必着)です。🐱



全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL:03-3292-9288

編集後記

昨年4月に10年以上在籍した部署から異動し、婦人会担当となり早いもので1年が過ぎようとしています。多々失敗をして皆様にご迷惑をおかけしつつも温かく見守っていただきありがとうございます。何とか2年目の春を迎えられそうです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。(菅) 🐱

あなたの、健康のそばに。



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。



ION SUPPLY DRINK

POCARI SWEAT

POCARI SWEAT is a healthy beverage that smoothly supplies the lost water and electrolytes during perspiration. With the appropriate density and electrolytes, close to that of human body fluid, it can be easily absorbed into the body.



ココロうるおす旅。
カラダうるおう水。



快適な旅のパートナーに

乾燥した機内では気付かないうちにカラダから水分が失われています。同じ姿勢で長時間、座り続けることもカラダの負担に。旅先で快適に過ごすためにも、こまめな水分補給と手足のストレッチを心がけましょう。ポカリスエットは失われた水分、電解質をすみやかに補い、長時間うるおしながら、快適な空の旅をサポートします。

ION SUPPLY DRINK

POCARI SWEAT

